

# 摂食・嚥下障害看護認定看護師

「**摂食**」とは、食べること・食事をとること全般を指し、「**嚥下**」は飲み込む事を言います。摂食・嚥下障害とは、摂食嚥下運動・意識障害・食欲低下・心理的障害などで、「**口から自力で栄養がとれない**」ことを言います。「口から食べる」ということは、単に身体機能の維持だけでなく、精神面や社会生活においても重要な意味を持ち、人の生活を豊かにします。口から食べることが出来なくなってしまったときのQOLの低下は計り知れません。1人も多くの「**食べたい！**」気持ちを支えられるような関わりが必要になってきます。

## 【活動内容】

1. 摂食・嚥下障害を抱える患者さんに対し、フィジカルアセスメントや全身状態から問題点を明らかにして、介入方法（口腔ケア・嚥下訓練・栄養管理など）を立案・実施・評価します。
2. 看護師・患者さん・ご家族からの相談を受け、アドバイスをさせていただきます。
3. 患者さん・ご家族をトータルサポートしていけるよう、多職種と連携を図っていきます。

## 【院内での主な活動】

- ・ 摂食嚥下障害看護勉強会
- ・ 実技講習会（口腔ケア・嚥下評価）
- ・ 摂食嚥下ケア推進ナースの育成
- ・ 摂食機能療法の推進



院内嚥下勉強会

青山真弓  
(2010年取得)

患者さんに摂食嚥下ケアをさせて頂く中で、食事が食べられるようになり笑顔で退院される姿を見る機会があります。摂食嚥下障害に対し関わることは、患者さんへ希望を贈るケアであり摂食嚥下障害看護の果たすべき使命の大きさを実感します。「**全ての患者さんに口から食べられるチャンス**を！」をモットーに、多くの患者さんに関わらせて頂きたいと思います。

高田友香  
(2015年取得)

摂食・嚥下障害のリスクのある患者さんにどのような看護を行えば安全に食べる事ができるのか考え、この分野について専門性を高めたいと思いました。患者さんのQOLを向上させるために、患者さんにとって「**口から食べる事**」とはどういうことなのかを考え、患者さんに関わらせて頂きたいと思います。

三橋力輝斗  
(2019年取得)

食道癌で他界した祖父の摂食嚥下障害を機に、「食べられない辛さ」を抱える患者さんと向き合いたいと思うようになり、認定看護師を目指しました。摂食嚥下障害の症状は患者さんにより千差万別で、参考書通りの方法では思うように効果が得られないこともあります。一人一人異なる摂食嚥下障害患者さんの「食べたい」という思いを汲み取り、もう一度「おいしい！」と笑顔になれるように全力でサポートさせて頂きたいと思います。